

プロスポーツによる地域づくり

～埼玉西武ライオンズの取り組みを中心に～

2021年開催された「東京オリンピック2020」では、埼玉県内の施設も会場に選定された。そのことから、埼玉県がスポーツを通したまちづくりに力を入れていると考えた。そこで、日ごろ競技場へと足を運ぶ機会が多い、県内のプロスポーツチーム域への活動に焦点を当て活動について考察した。また、近年、入場者数を伸ばすことに成功した県外のプロスポーツチームによるまちづくりや、地域活動に関しても取り上げて考察した。本論文の目的は県内外のプロスポーツチームの活動考察だけにとどまらず、筆者が長年愛している埼玉西武ライオンズが今後取り入れていくべき活動に関して提言を行った。

そこで本研究では、6チームの活動を筆者なりに考察していった。どのチームも大体同じような活動をしているが、力を入れている分野や似ている様な分野でも中身が違っていた。だが、それぞれが拠点を置く地域や県での活動をしており、地域に密着して活動を行っているプロスポーツチームだと考えることができた。また、各チームを考察していく中で、プロスポーツチームが行う地域に密着した活動は、必ずしも、"人與人"の関係でなければいけないと感じていた筆者のこれまでの考えを大きく変えた。それは、場所や物を提供する"人と空間"あるいは"人と物"の関係でも十分に地域に密着した取り組みを行うことができるという事実である。

本研究の最重要テーマである埼玉西武ライオンズが今後取り入れていくべき活動提言だが以下の3つの取り組みを示した。「花によるまちづくり」、「学習の手助けとなる教材出版」、既に行っている「リアル野球盤の発展」を示した。これらを取り入れていけば、地域の社会的な課題解決に貢献するだけでなく、ライオンズは埼玉県民の幅広い層に認知され、親しまれる、本当の意味での県民球団になっていくのではないかと信じている。